

蟻通

特 別

子 12

3656

3



第

和歌のまゝをとりて

下

玉は晴よ糸らん 是の紀書



少々入我和歌たりまゝ

らん其位者玉は晴よ糸らん

程よ唯々思ひを紀乃後於

上

勢人 爰よ後てうはふ出

標花ぐよ乃実戸於の昔よ

下

きじろり^ひか^くろ^くろ^くろ^くろ^くろ^く

も^ひわ^ひと^わあ^なな^なひ^しと^よ

あ^けの^よも^もろ^ろろ^ろろ^ろろ^ろ

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

あ^のた^のま^さや^なな^よく

天正

辛

だきしと〜海々 あ〜勿我たの
 ほむやありとほ〜能の神とそ
 ものとりめ志たまふは神乃
 か〜うと急てる上あ〜いよも
早 清あいりり 早〜う〜き能
早 ほむおぬは社ハ 早〜森能う〜
早 久よもあ〜宮人乃 燈乃光の

早 うけよわ〜神ハ 實も宮居ハ
早 ありとほ〜能 神〜乃多居能
 二柱〜能〜もすき入り〜神ハ
 かた〜巻あや宮も社壇能あり
下 くるう馬上よおり踐寸江小乃
下 神能象も〜能あ〜弱かく能
 志〜して神おを〜う能〜能〜う

二三二 二二 二二
うまはくし 二二 二二
ねんこにぬるま

早詞

人ふを渡りらう 是に紀書之

早

あそふ 費るよそ 法入人けし

牙張よして 袂通し 法を向らん

早

こね冬伝よそ 人ともう 誰い

えたる せ人よ ありあま 我れ

こね言義乃に 浦いん 神通ふ

うまふへ さいとお ぶらうらわ

言お義乃に 浦をぶよ 意飲

下カニ

あま言お たちうそ 木根の 草

木根い ありと ぼし せ思ふ へ 奏

早

あま言お けをり せし かな け

ふらう かな け ありと かな とも

詞

思ふ かな け ありと かな とも

叶々ぬ身ふふおももーろーと

おもふは哥はいゝと神一箇よ

うむ〜んき 美甚 あ〜ぬよき〜ぬ

もろかな神いなもろ納交あうる

へきと 案乃言義いあま雲野

まのまかたて〜き教な神い

ありとか志とも思ふ〜きりい

とはあ〜おも〜ろおほ〜んや

元哥ふは古義あわ〜神ふた乃

ちま〜んまめをり〜六乃まを

りら法也 上 されい和哥乃〜と

わき〜い神一代もわら〜り〜まわ

〜人偏よあ〜の〜一〜旅り是を

かめさ〜〜せ中ゆもほ〜〜ゆさい

心ふりあふみや人もあはれ
客持よ逢坂乃冥於清あまうけ
見ゆるしきまおふれ弱をひき
くさく神ハクキウもとの
もるふ歩ミ格ノ裁を南枝
巢をけね馬小風ノいうへ
くも哥よやうく神さげ流り

神直みほをあふのさほ入集り

き人あやまーまさい乃流とを

まて神直をけし志めた事人

く乃流とを中さんか

神みさしゆふけまらも

あま一向とり花乃雪を

ちて再拜以 謹上再拜

あー 天地ひらきりーまはらー
あー 舞歌乃たうー可あかなま
あー 貴さの言義おは清めく
あー かなる心をまじる申入り
あー わふすういをいゆらうとそ
あー 名居乃のま本りーたちらのれ
あー 進いう祈あともんーまのこまそ

うきさきけやうりーう勢よくわ
あー 貴之も是をうけらひの品残乃
あー 神楽あハあをて様ハ所宜よ
あー なるく

